

# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 佐坂茂美

山名	武奈ヶ岳	山行名	例会・テント泊山行	
ルート	5月5日 京田辺—(車)—JR比良駅—桜のコバ—ノタノホリ—(堂満東稜道)—堂満岳—金糞峠—八雲ヶ原(幕営) 5月6日 八雲ヶ原—武奈ヶ岳—八雲ヶ原—次郎坊山—カラ岳—釈迦岳—ヤケオ山—ヤケ山—楊梅ノ滝—JR北小松駅—(JR)—JR比良駅—(車)—京田辺			
山行日	2013年5月5日-6日	天候	晴れ	
参加者	リーダー：佐坂      サブリーダー：小川 男性：中島、広瀬、中田、若林 女性：大谷、秋山、岡本、徳田 合計：10名			
ルート概略図				
	コースタイム			
	地名	時：分	地名	時：分
	5月5日	集	5月6日	
	松井山手駅	発	八雲ヶ原	発 3:30
	JR比良駅	着 8:20	武奈ヶ岳	着 4:35
		発 8:50		発 5:15
	桜のコバ	着	八雲ヶ原	着 6:10
		発 10:25		発 7:50
	ノタノホリ	着	釈迦岳	着
		発 10:35		発 8:55
	堂満岳	着 12:45	ヤケオ山	着
		発 13:30		発 9:35
	金糞峠	着 14:40	ヤケ山	発 10:35
	八雲ヶ原(幕営)	着 15:30	楊梅ノ滝	発 12:25
			JR北小松駅	14:26

## 山行報告

4月27日、この山行の参加者が山ルームに集まり、共同装備品のチェックや下山ルートを相談。装備品はガイドブックに記載されている装備表(テント泊山行)を資料にし確認しあいながら、又中島さんに教を乞いながら準備に入りました。それと夕食のメニューを(豚汁)と決め、買い出し係りを決定しました。打合せの途中で“雨の場合は”という質問も出ましたが、“雨でも決行、それが登山”の一言で目を丸くした参加者もありましたがおさまりました。

今回の参加者は比較の入会歴の浅い会員が多くロッカーがどこにあるのか、どんな装備品があるのかを実際に目にする人が殆どでした。

会の装備品ロッカーからテント(二張)等を取り出し並べてみると、その多さ(大きさ)に皆唾然。出来ればザックに外付けしないようにとのアドバイスもあり「そんな大きなザックは持ってません」等々の発言もありましたが、当日のザックをみると新しく50リットル前後





を買った人、レンタルで借りた人、70リットル程度のザックを既に持っていた人等々様々でした。テント泊山行の場合、50リットル程度のザックは必要かも・・・。

5月5日

午前7時に松井山手駅に10名が集合。小川者に5名、佐坂車に5名が分乗し比良駅を目指して出発。小川さん達とは再度比良駅で合流し共同装備の分配。打合せの時に男性も女性も同重量を担ぐと告げていましたので、秤を持参しほぼ同じ重さになるように分配しました。一人あたり平均15kg前後はあったでしょうか？



通常の山行では担いだことのない重さに最初は話し声も聞こえてきましたが、徐々に話し声も小さくなりイン谷口手前の桜のコバからノタノホリを抜け堂満東稜道を進むと眼前に堂満岳がデンと構えていました。この急登はさすがに登り甲斐がありました。皆押し黙ってただひたすら歩を進めました。堂満岳山頂でのやや遅い昼食を終え本日の目的地八雲が原にほど、予定通り3時30分に到着。八雲が原では既に数張のテントが設営しており夕食の準備を開始しているグループもありました。

私たちも早速、テント設営作業開始。テントは2張、男性群はまず8人用のテント設営作業に入る。

皆未経験だが、中島さんの指導を得てどうにか設営完了。女性陣も少し遅れて4人用テント設営完了。



私と小川さんだけはツエルト泊の経験がしなくなり、傍の木に細引きを渡しツエルト内に各々の荷物を搬入して就寝準備も終えた。

夕食は前日から女性陣に準備して貰った餅入り、うどん入りの豚汁を肴に当然“アルコール”付きで話が弾み、楽しいひと時を送りました。明朝は山頂でご来光を見るために日の出時刻5時01分に合わせ3時起床を確認し、少し早目の就寝となりました。

5月6日

午前3時頃そろそろ皆起き始める。行動食を口にする者、給水、排水をする者とそれぞれが準備完了。体調のすぐれない二人を残し武奈ヶ岳へ。暗闇である。出発前に皆でGPSを使い緯度、経度を確認し磁北線を書き入れた地図を使いコンパスで方向を定めました。踏み跡があっても格好の読図山行となりました。肌寒い中をヘッドランプの明かりを頼りに、分岐点でコンパスを使い進行方向を確認しましたが、それでも少し脇道へそれてしまいましたが、暗闇やホワイトアウトでのコンパスの威力を再確認しました。

4時35分 山頂到着。日の出までまだ25分ありました。強い風に寒さを覚えながらじっとご来光を待ちました。私たち同様、男性が一人ご来光を待ちました。東の空にやがて太陽が顔を出し“武奈ヶ岳のご来光”が終わりました。

八雲が原に到着後、昨夜の夕食にアルファ米を入れ雑炊。少し米粒に芯があり歯応え充分の朝食を完食し早々にテントの撤収。それぞれが又分担しパッキング終了。7時50分に下山開始しました。食糧やアルコールがなくなると矢張り軽くなったザックは楽でした。

(なぜか私のザックだけは重くなっていましたが・・・！)





下山ルートでは若林さんに栄えあるセカンドをお願いし、彼のペースで休憩の合図（笛を一回吹き鳴らす）役を引き受けて頂き 若干多めの休憩回数で釈迦岳—ヤケオ山—ヤケ山—楊梅の滝と降りてきました。

途中、中島さんから「この調子だと12時過ぎには北小松駅に着きそうだからもう少し距離を伸ばそうか？」との提案がありましたが皆「無言」で拒否の様子でした。

ヒヤリハットもなく、殆どの参加者が初めての経験でしたが これを機会にこんな山行もたまにはよいもんだと感じました。 今回の山行の意図に教育部で教わった「読図」「コンパスを使った現在地確認」もありましたが 下山途中で、もう少し時間を掛けて読図をするような山行を企画して欲しいとの意見もあり「私は何処にいますか」山行も楽しそうだと感じました。

思い重量を担ぎながら無事下山出来た仲間感謝々々。 皆 タフやで一。

## 感想文

岡本 綾子

テント泊の経験がなく、一度体験をしたかったので今回の例会に参加させて頂きました。参加となると、シュラフや容量の大きいザックが必要となり、共同装備の打合せ、食料の買い出しなど前準備が大変でした。当日、共同装備を分担し、荷物の計測をすると14kgになっていました。山行を始めて最高重量です。ずっしりとくる重さに耐え、息を切らしながら山を登っていると、これは楽しいのだろうか疑問を持ちそうです。テント場で、指示に従いテント設営を手伝いました。手際の良い捌きに、さすが経験豊かな諸先輩！尊敬の眼差しで見つめます。テントが完成し、次は食事の準備です。10人分で量が多い事もあり、煮立つのに時間がかかりました。持参したガスが乏しくなり、明日の水の準備等に影響が出てきました。食事が出来上り、みんなでワイワイ囲む鍋はとても美味しく頂きました。自然の中で食べるとやはり一味違います。一番心配していた寒さもほとんどなく、快適とまでは言えませんがテントライフを楽しみました。また次の企画を宜しくお願い致します。

若林 憲治

数十年前に淀川の河川でのテントキャンプを経験も山でのキャンプは初めて 過去は、バンガロか山の家での宿泊 テント泊に関して全く不安が無い訳ではなかったが、実際には不安も解消(中島さん指導のお陰)夕食は大鍋でとん汁料理とうどんスキ とても美味しく頂いたが、馴れぬテント泊キャンプと19時前後の消灯には中々寝付けず (両隣の方は良く寝ていたよとの意見でした)

### 《次回への参考意見》

- ① 料理と燃料の効率を考えれば大鍋より中鍋程度数個で対処。
- ② キャンプ地へは早い時間帯に到着 (今回は充分余裕ある計画に満足)
- ③ 共同荷物持参重量の平準化。
- ③ 作業効率化を図る為 各担当の選任(今回は段取り良く機能)
- ④ 燃料を余分に持参すべき(今回は100%消化) 安い燃料は中味が少ない?

山の生水飲むのを避ける為。こんな事を感じたのも経験から言える事です。関係者各位お疲れさまでした。



徳田 幸子

“テント泊は自分の荷物プラス共同装備を持たなければならない“との理由で今まで参加はあまりしていませんでした。でも、今回の山は何回も登っている武奈ヶ岳だし、テント場は八雲ヶ原なので、テント泊山行に慣れるためにもと思い、参加申し込みをしました。(それでも15kgはしんどかった。)あの急登の堂満岳を喘ぎながら とうにか超え、テント場の八雲ヶ原に着いたときは本当にホッとしました。着くと直ぐにテント設営です。テントの張り方は昔とは違い意外と簡単で、比較的楽に張れたとは思いましたが回数を重ねるともっと早く張れると思います。そしてテントの良さは狭い山小屋で窮屈な思いをしなくて済む、何しろ安上がり(これって最高!)がいいですね。これに慣れたら遠くの山へもテントを担いで行けるかなァ・・・。

今回は食事もうっくりできたし、お酒を飲みながらいろんな話をしたりと 星空の下で楽しい一夜を過ごしました。天候も私たちを歓迎してくれたのか 少し暑かったけど晴天でした。これからも計画をお願いします。リーダー、サブリーダー、皆様お世話になりました。

小川 弘二

車2台に分乗し、比良駅に着いたのが8時過ぎ。その後、共同荷物の振り分けを行い、重量を測ると約17kg。肩に担ぐのもやっとの思いで佐坂リーダーを先頭に歩き始めたのが9時前。佐坂CLの歩く速度が早すぎるということでSL(名前だけの・・・)である私が先頭に代わり歩き始めたが、汗はタラタラ、お腹はゴロゴロでヨチヨチ歩きが精一杯。

何度も何度も休憩を取りながら、登って行ったが堂満岳の急登に差し掛かり遂に力尽き全く脚が上がらなくなり、ダウンとなるお粗末。荷物を軽くして貰ったり、O女子の荷物と交換して貰ったりして、何とか頂上に達するが青息吐息。頂上で昼食となるが、食欲が無くカップヌードルも半分しか食べられない状態。1週間前から遊びに来ていた孫の風疹が移ったのか前日から頭痛や関節の痛み等で調子が悪かったとはいえ我ながら体力不足を嘆くばかり。只 宿泊地の八雲ヶ原に着き、女性陣の腕を振った豚汁を戴くころには多少食欲も回復し、皆でワイワイガヤガヤ楽しい時間を過ごすことが出来ました。

8人用のテントでしたが、軒が大きいのとトイレが近いので中島さんのツェルトをお借りし初めてのツェルト泊。日が落ちると寒さが身にしみ ありったけの衣服を身にまといシュラフに入り眠ろうとしたが横のテントの中から誰かさんの軒がゴォー。うつらうつらしている間に武奈ヶ岳御来光ツアーの集合合図。残念ながら 私とWさんの二人は今回 留守部隊。再びシュラフに潜りこみ寝ようとしたがその内に夜が明け、昨夜の残り物を暖めたり、湯を沸かしたりと大忙し。そうこうしている内にツアー部隊は無事ご帰還し、賑やかに朝食を戴き、その後 釈迦岳・ヤケオ山・ヤケ山を經由して無事、北小松駅に下山。



同行の皆さん方には多大なご迷惑をおかけいたしました。初めての貴重な経験と感謝いたしております。

尚、家に帰り 体重を量ったところ 3kg減の71.5kg。もう一度 テント泊をすれば

念願の70kgが切れるぞと喜んだのも束の間で次の日に体重を量ると+2kg。その次の日には以前と変わらぬ74.5kg。そう簡単に体重を減らせるものなら世の女性軍は苦勞しないものと思知らされました。しかし夏山までには何とか70kgを切ろうと決心致した次第です。それにはアルコールの量を減らすことが第一と考えており、皆様方のご協力をお願い申し上げます。



## 比良テント泊 山行

中島 貞夫

過去比良山には何度も登っているが、武奈ヶ岳頂上で日の出を見たのは今回が初めてである。何度見ても自然の妙というか不思議さを感じ感動するものがある。とはいうものの風が強くて寒かったのが実感だった。

今回は共同装備のテントや食料を分担して担ぎ上げなければならないので、いつもより何倍もの荷の大きなザックを背負う其の姿は日頃の山友会の例会にない逞しさを感じた。会員の平均年齢が上がってきているとはいえまだまだハードな山行も行けると思った。また秋や雪の時期に計画してみるのも楽しみが増えて良いのではないか。

大谷 典子

私の齢で、テント泊？ やってみよう決心して、仲間入り。リュックは重量級。肩に食い込み、堂満岳の頂上直下はきつかった。私達後発組の4人が頂上に着いたら、先の方達は昼食中。いつもはリーダーさんと登頂を喜び合って固い握手をする。さわやかなこの瞬間がたまらなくうれしいのに、今回はそれが無い。がっかりしてしまった。(今はもう、主人とも手をつなぐことなど忘れてしまっているのに、山では、よその男性と握手して喜んでいる。お父さんごめんなさい。)



八雲が原湿原にはもうテント数個。連休中のこととて賑やか。八人用テントは男性が設営。組み立ても早く、四人用の女性テントは、なかなか骨組が決まらず、もたついていたら、秋山さんのアドバイスでさっと我が家の完成。彼女、一人でもテントかついで泊まっていたそう。さすがでした。

さて、夕食の準備がこれ難題。お鍋が大きすぎて小さなコンロにはのっからない。そこは元キャンパーの男性が、太い丸太をどっかから調達。お鍋をぶら下げて、四個のコンロで下から熱した。お鍋が煮えた時にはほっとした。ガスボンベの容量が心配で、お湯を沸かすのも一苦勞でした。朝の分も残しておかなければならず、ひやひやしました。お野菜たっぷりの豚鍋、うどんに、お餅たっぷりの夕食で大満足でした。アルコールで皆の気持ちが打ち解けて、夜の冷気に気づくまで、楽しい語りが続いた。特に山行部員の新人さん達とは今回距離が縮まったとおもう。奄美大島がどこにあるのかで随分盛り上がった。今夜は主人の鼾もないし、朝までぐっすりやすみましようとおもい、睡眠薬を一服飲んだけど、さっぱり効かなかった。鼾に代わってのカエルの歌声を気持ちよく聴いたのは、最初だけ。朝までもんもんとしていたところで、3時の起床。ご来光を恨めしく思いながら武奈ヶ岳に向かった。体がふらつき足はよたよた。後ろの広瀬さんが心配して私を支えようとしてくださったとか。後で知りました。ありがとうございます。ご来光も眠たい目には美しいとも思われませんでした。下山ではようやく普通の足取りに戻ってよかったです。

若林さんと、小川さんが朝食の用意をして待ってくださり、助かりました。今日の行程を考えて、私はおじやをたっぷりいただいた。おかげできつい下りもこなせました。ただ足に豆ができていても知らずに歩いたら、皮がめくれてしまい痛かったです。これからも体を鍛えて重たい荷物を担げるよう訓練しましょう。チャンスがあればどんどんテント泊を楽しみたいです。飛び入り参加の私を仲間に加えてくださった方々ありがとうございました。

ひとつトイレの事が心配です。比良山は登山者の多い人気のある山。泊まりともなれば大便の問題があるでしょう。トイレを作っていただいたら一番ですが、今のところ不可能です。いつか早池峰山に登って、もう少しで登山口に帰り着く手前で強烈な腹痛。冷や汗タラタラして以来、携帯トイレを買いあさりました。家に沢山ストック。たいがい山では便秘で用をたす事もないと思い今回も持っていかず。携帯トイレは持っていくのが当たり前のこと。できるだけ自然を汚さないようにしたいものです。特に私は小用の回数がひと様より多いのでいつも悪いなあと思ってます。簡便に用を足せるグッズも考えてみたいです。